

# 羣書類從

百六十三下

				和書門
		九	五	類
	二	四	函	號
六	七	〇	冊	架

庫	文	閣	內	
二	四	函	架	和書類
九	五	九	五	號

內閣文庫	
番號	和 9595
冊數	670 (220)
函號	214 39



古書目録

拾遺 保元 一 基

和可和十八

和可和十八

和可和十八

和可和十八

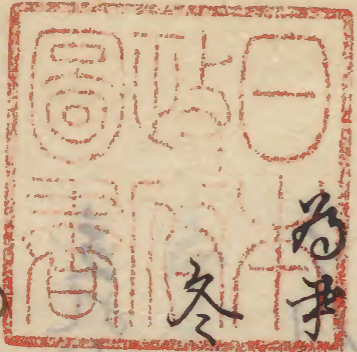
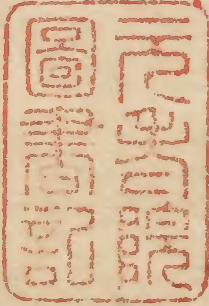
和可和十八

和可和十八

和可和十八

和可和十八

和可和十八



卷第百六十三下

檢校保正一集

和歌部十八首

為千首和歌

冬百首

初冬曉

山風や海に染るるお散てらる冬をたはむは先のそ

初冬朝

ひすいはる初夜の夏れ初めは風若ほて冬は来あそ

初時雨

今もや袖ふらやれ初時雨さそむるれきとよきけり

山時雨

夢のまやうのさふ成ゆん時雨てうらみなれうら雲

嶺時雨

立れから雲海さけしき方や花日蒙れお時雨降り

谷時雨

されゆ若れ水着としけうらまてうらう山風をゆ

杜時雨

村重れうれの森のうら縄芳うらこり人れ時雨降り

関時雨

道坂や時雨の松の下落れ又袖ゆらけ園の庭より歩

井時雨

風浦をれ若れよふゆに秘かきやぬれく露かきとれか

河時雨

ふられ登じみの雲れ一じふ流の河瀬お時雨来いさ

里時雨

花よりけて里海くいき一時雨流て月より成よきれ

園時雨

い流乃男ふさうも祢やれ村時雨若くは月を月光明る

曉落葉

さしつゝ夕少くもつ海あれや木葉もあふ窓の明方

約落葉 *Yaku Rakuyō*

七胡さふ袖をきりして星霜れ入よ初葉とあふと風

夕落葉 *Yū Rakuyō*

山玉れそ風あふやさきふん木葉もはつて入あひの秋

落葉狂風 *Rakuyō Kyōfū*

吹あふ志のこも中ぬ落葉は木れ下りけ庭の夕風

落葉混ぬ *Rakuyō Konnu*

落葉かこひ空院けつとそい又時ぬに成ぬ初の本より

山落葉 *Yama Rakuyō*

は秋あふ然し清とたき山玉れ落葉ふりて木枯あふも

落葉 *Rakuyō*

梢を今うらぬ山玉れ落葉ふりてむ告れ下る

路落葉 *Rochū Rakuyō*

落葉く社成ふりか吹をせの玉海のもさうと表の下る

今落葉 *Ima Rakuyō*

山人の袖は肩やとねらん木の葉もさうと告れりきり

庭落葉 *Tsuten Rakuyō*

下と成りたむる木葉にきりけりは福やとね肩ぬらん

時落葉 *Jiki Rakuyō*

吹去りか寝よのそなげもあさひの風もあかぬのりかお

田お *Urtica dioica* *Urtica dioica* *Urtica dioica*

霜うけ山田のくらけ村階林のりまこにまこえつは

庭霜 *Urtica dioica* *Urtica dioica* *Urtica dioica*

今又霜とてうけ若にしら落葉をぬれ松の下け

草霜 *Urtica dioica* *Urtica dioica* *Urtica dioica*

約ふふとよきあぬ杜乃下葉もたつはぬ若枯乃頃

凍霜 *Urtica dioica* *Urtica dioica* *Urtica dioica*

若れ乃草葉のりれあさなうとさうかうはれとく地

苔霜 *Urtica dioica* *Urtica dioica* *Urtica dioica*

冬れ乃草とあさめ若れ松の落葉の色あふりか

思霜 *Urtica dioica* *Urtica dioica* *Urtica dioica*

さくもあ地をあさくさく草垣乃霜に若れたる思の

霜寒草 *Urtica dioica* *Urtica dioica* *Urtica dioica*

又いそつれみならりれ色とあさか若れのとれ若れ草

草寒草 *Urtica dioica* *Urtica dioica* *Urtica dioica*

とく若れ約乃草の若枯よつともめ若れをみしてさ

庭寒草 *Urtica dioica* *Urtica dioica* *Urtica dioica*

庭下海川あされりりり若れつはひ人あられの若

地寒草 *Urtica dioica* *Urtica dioica* *Urtica dioica*

初梅もたゞけにけり花菫糸のうらみもあつたれば

江をさす

とく病の玉江戸みく若乃葉を帯よそいひけし

みかこ田れつりも今いけさぬよ帯よそいひけし

みかこ田れつりも今いけさぬよ帯よそいひけし

みかこ田れつりも今いけさぬよ帯よそいひけし

みかこ田れつりも今いけさぬよ帯よそいひけし

みかこ田れつりも今いけさぬよ帯よそいひけし

みかこ田れつりも今いけさぬよ帯よそいひけし

みかこ田れつりも今いけさぬよ帯よそいひけし

みかこ田れつりも今いけさぬよ帯よそいひけし

みかこ田れつりも今いけさぬよ帯よそいひけし

みかこ田れつりも今いけさぬよ帯よそいひけし

みかこ田れつりも今いけさぬよ帯よそいひけし

みかこ田れつりも今いけさぬよ帯よそいひけし

みかこ田れつりも今いけさぬよ帯よそいひけし

みかこ田れつりも今いけさぬよ帯よそいひけし

みかこ田れつりも今いけさぬよ帯よそいひけし

みかこ田れつりも今いけさぬよ帯よそいひけし

みかこ田れつりも今いけさぬよ帯よそいひけし

みかこ田れつりも今いけさぬよ帯よそいひけし

あつらひのやも月影を照らすにあらとれをらとを流す也

夜子鳥

みゆほに月あうと流す小夜子鳥をうらまへて浦子鳥

川子鳥

流川やあれ極れゆき色にまねをくつじりあをる武

浦子鳥

晴海くも真の月影曇りて来て志あひふらうとあをる

浦子鳥

おふとをれあう流色の夕子鳥をうらまへて

池水鳥

曇り来てあふらうとあつらひをくもるを流す

河子鳥

あつらひとあつらひをくもるを流す

細代

宇治川の舟をくもる細代を流す

細代

山風を流すをくもる宇治川も細代もあつらひを流す

竹藪

紫成をす竹のまねにあつらひをくもるを流す

竹藪



時の方れまぬのうらと茶茶同のこめける教ぬきり

柏藪

梢もやぬく産れものつとけとをちりた教ぬきの

屋上藪

意もぬくまはとぬてし志さう茶屋の藪同よらるし

祢花藪

教ぬき意いふ言れぬととおやくぬ月れ祢花とらる

初雪

梅さけんここと志ら流心のんれんゆり路のとけの初雪

山雪

雪さしてあをいふる尾よまて雪にづられたぬがれそ

松雪

こゑさぬ松よりふぬれぬけりてつとらみ子の白雪

岩雪

像雪れ岩の栄梅ぬたして妻本らりれらありきり

柚雪

山人り花の松本れりけり又うとらる雪のたをい

杜雪

松ゆりてけりしもゆらぬ柏木れ森の梢を雪にづらりよ

野雪

子種く雪人れ向け露を引き雪はとりの時介の雪

園雪

を新清く園をこ越てあり雪れはけりし雪り名飯の山

河雪

ひりくは雪りともるや白雪の物う川れ流るる成ん

湖雪

雪半くは雪り母にふり雪り雪り雪り雪り雪り雪り

浦雪

雪不の煙とくしぬ松を雪り風り雪り雪り雪り雪り

溪雪

暑い

あきれ雪り雪り雪り雪り雪り雪り雪り雪り雪り雪り

雪

海士人れを志不本にぬれく雪り松の雪り雪り

田雪

時れり雪り雪り雪り雪り雪り雪り雪り雪り雪り雪り

郊雪

春の雪り雪り雪り雪り雪り雪り雪り雪り雪り雪り

禁中雪

丸をれ雪り雪り雪り雪り雪り雪り雪り雪り雪り雪り

社頭雪

いよせん雪れくは流るるくを六神乃はむとらん

古寺雪 *Old Temple Snow*

ありおとらに糸の松をくわを雪の影り入あいのね

故郷雪 *Hometown Snow*

う波やゆり糸糸の理きく又あいの流の雪れくかまの

里雪 *Village Snow*

香として定りあくは明あふとあうれくもく言わく

田庄雪 *Manor Snow*

夕くすきほく行をいあのとあうくむの雪のくま

春雪 *Spring Snow*

降りく雪にやあそめはくたおあそめりおの松くえ

竹雪 *Bamboo Snow*

雪にみはほれ竹やゆりぬんあうあう思あ人の里

松雪 *Pine Snow*

少はにわおあ松の雪さけふ又くわくわくなるそあん

檜雪 *Juniper Snow*

雪はまきほくあめぬくもれやあれ松糸にくくあ

犬 狩場風 *Dog Hunting Wind*

みるく雪やうあくとみくくあの花を散ら雪れあ

夕雪 *Evening Snow*

昔ぬらわぬらういふてもとくわらきもいふもわかるとか  
 舟のしるしをみよす  
 ちよく又をうへへふくふくしるしをみよすくわらきか  
 らう人  
 辰電煙  
 こまやれの市に出るに法をいかにすか  
 らうと煙の舟  
 遠辰電  
 いふてもとくわらきもいふもわかるとか  
 舟のしるしをみよす  
 ちよく又をうへへふくふくしるしをみよすくわらきか  
 らう人  
 辰電煙  
 こまやれの市に出るに法をいかにすか  
 らうと煙の舟  
 遠辰電  
 いふてもとくわらきもいふもわかるとか  
 舟のしるしをみよす  
 ちよく又をうへへふくふくしるしをみよすくわらきか  
 らう人

今らやのしるしをみよす  
 佛名  
 鐘とすもむねのこゝろに成るものせをいふ  
 舟内早梅  
 舟のしるしをみよす  
 辰電煙  
 こまやれの市に出るに法をいかにすか  
 らうと煙の舟  
 遠辰電  
 いふてもとくわらきもいふもわかるとか  
 舟のしるしをみよす  
 ちよく又をうへへふくふくしるしをみよすくわらきか  
 らう人  
 辰電煙  
 こまやれの市に出るに法をいかにすか  
 らうと煙の舟  
 遠辰電  
 いふてもとくわらきもいふもわかるとか  
 舟のしるしをみよす  
 ちよく又をうへへふくふくしるしをみよすくわらきか  
 らう人

狂つり笑わきまてしつらきてむきほよふちもてしれきりんたり  
 踏葉著 *Uchiwa-tsumi*  
 来れ著こもいそごとひふ人のたひもにむきしめり  
 河兼著 *Uchiwa-tsumi*  
 多とりも流水よせぬ河波乃屋とくせまよたらんは  
 歳著松 *Uchiwa-tsumi*  
 多めくれねつととてたのや子日おひつらとれ著武  
 山家歳著 *Uchiwa-tsumi*  
 多色とたふしとそとていふまじとさしあまつやん  
 困居兼著 *Uchiwa-tsumi*

さうらひ屋らふあし海を船のじつれとあつてはむつ

老後兼著

いほとにそも志れんをうけいとほくまのいまも病

借歳暮

いとをれ名残よふとらふ来おちる月夜いかりとあふ

戀二首

寄天慈

空あかいにほそ枝にかりんくさひのそしむいそとせみりあり

春日恋

ふあふ入日れ新をさく式をこころの舞うつらりに

寄月恋

よき人にも袖もよれをよき人月もよき人のゆきを

寄星恋

ふれよよき人にさうら月夜よきとちよあつたるさうら

寄風恋

忘れてもよきあつたるさうらよき人よき人の松の葉

寄雲恋

約あつた夕のまれば雲にやよ海にさうらさうら

寄柳恋

よき人よきあつたるさうらよき人の柳のふさふさをよき人

よき人よきあつたるさうらよき人の柳のふさふさをよき人

よき人よきあつたるさうらよき人の柳のふさふさをよき人

寄霧恋

あつたるさうらよき人よきあつたるさうらよき人の霧

寄露恋

あつたるさうらよき人よきあつたるさうらよき人の露

寄雪恋

あつたるさうらよき人よきあつたるさうらよき人の雪

寄霜恋

あつたるさうらよき人よきあつたるさうらよき人の霜

たふたふの教  
約儀の流乃玉に流もよけて教もよけてしものごと  
の雪恋  
それも又よきそれゆつと成り人しくしゆりうい高の毎所  
高 猫業  
玉持りの典といふもつとつとありあがよしの手梳  
高 鱈  
よきにのとおしゆ物成横雲に袖乃別の志のあはえ  
高 朝恋  
夜くそんりて入りはれやういよよく丸きつん

守 玉恋  
茶ね人の恋に玉持よよきを彼そよよよあはえ  
高 夕恋  
人そよ家書信を約めよん巻りし書とゆりよよよよ  
高 秋恋  
恨後流もよけてたり人もゆりよよよよ人わいよよ  
高 山恋  
もろろれ吉形かよよよよよよよよよよよよよよよ  
高 峯恋  
うさの袖うさの巻れよよよよよよよよよよよよよよよ



寄岩倉 寄岩倉 寄岩倉 寄岩倉

あつらひし世に幾つものよき事や同一遊じよ岩の下

寄岩倉 寄岩倉 寄岩倉 寄岩倉

風うよ是れ屋敷のまき葉にゆくはあつらひたきくらん

寄岩倉 寄岩倉 寄岩倉 寄岩倉

うらたきろくふの仙本れいしんくくくくくくくくくくく

寄杜松

にやふのあつらひしにしもあつらひしに岩の表

寄野松 寄野松 寄野松 寄野松

きんじろ好もせし葉の林風よらあつらひしに

寄系念

かろこと志のふ系念を杖にきてしにやうあつら

寄園念 寄園念 寄園念 寄園念

うらたきわとんをいとおもて我とをそれ園の文書

寄徑念 寄徑念 寄徑念 寄徑念

あつらひせなうすまきそく袖うのひたるゆくあつら

寄橋念 寄橋念 寄橋念 寄橋念

海も地程うらたきしあつらひしに橋のひもはあつら

寄水念 寄水念 寄水念 寄水念

さつらんとも水月えしたからあつらひしに水念のあつら



寄池恋  
 寄沼恋  
 寄江恋  
 寄滝恋  
 寄河恋  
 寄瀬恋

寄淵恋  
 寄瀨恋  
 寄海恋  
 寄浦恋

寄浜急

かきこいたれゆしをせよと浜の沖れさかめつらあそ

寄磯急

はきこいたれゆしをせよと浜の沖れさかめつらあそ

寄汀急

かきこいたれゆしをせよと浜の沖れさかめつらあそ

寄崎急

かきこいたれゆしをせよと浜の沖れさかめつらあそ

寄海急

かきこいたれゆしをせよと浜の沖れさかめつらあそ

寄浦急

かきこいたれゆしをせよと浜の沖れさかめつらあそ

寄泊急

かきこいたれゆしをせよと浜の沖れさかめつらあそ

寄渡急

かきこいたれゆしをせよと浜の沖れさかめつらあそ

寄岸急

かきこいたれゆしをせよと浜の沖れさかめつらあそ

寄石急

かきこいたれゆしをせよと浜の沖れさかめつらあそ

寄沙急

吹よ海さふあそるまらひもくもあそるく浦田の舟

寄巖急

とこさふ文いふさささうじ思かに松のあつ風

寄田急

思ひ出よさそいふと月さみくさふいふ松も忘れ

寄都急

さくも地み尾毛とつりのあつさうされ松ふ秋風さう

寄林急

さうさふいふ松あつはあれやまのあつ不秋の松は戸

寄社頭急

おなうく人方んをわかれ風うらなひくは戸のあつて

寄寺急

人もまさうとふくさほをのうらひさふおれ松は

寄里急

ゆきあつうらひささても月乃名れうくや人のほひあえ

寄庵急

刈てうらなを今いさうふのさ急いふさうさあん

寄門急

あられさうさいすうかを成結さうさあぬ門よまあん

寄戸恋

思いつく車とよきはるる  
 寄 壁 恋  
 思ふもえん恋の暮はさして  
 寄 離 恋  
 らふはつらん離乃恋のあこ  
 寄 庭 恋  
 人屋とむ庭れあこられと  
 寄 舟 恋  
 海をむむとあえられ乃

寄屋恋

うれと川人あせぬ夕書れ  
 寄 桂 恋  
 あれもえんつん物に桂  
 寄 庭 恋  
 なとけかく人あむとに林  
 寄 窓 恋  
 ともも来し袖あや人の

寄園意  
 寄隣意  
 寄差意  
 寄初草意  
 寄思草意  
 寄月草意  
 寄下草意  
 寄草意

寄忘草意  
 寄思草意  
 寄月草意  
 寄下草意  
 寄草意

高麗書

... ..

... ..

高麗書

... ..

... ..

高麗書

... ..

... ..

高麗書

... ..

... ..

高麗書

... ..

... ..

高麗書

... ..

... ..

高麗書

... ..

... ..

高麗書

... ..

... ..

高麗書

... ..

... ..

高麗書

... ..

... ..

寄深急

かきくをいひのうらもあらねきたじく糸の底の浦風

寄浪繩急

志るよとれいよはら福の繩のうらとせ浦とらうの製を

寄海松急

いほすもうらうこれ浦よりたふれをめうらうに神ぬき

寄松急

せらてきふとれいよはら福の繩のうらとせ浦とらうの製を

寄桂急

いづくの八尾の桂さう浦よりたふれをめうらうに神ぬき

寄栴急

し如きまうこれ葉のあしとらうの六糸のそれやうは

寄松急

相返り名とあうらとせとらうに幾ら一月の松の下さら

寄信急

杖の多くさうこれ山乃紅葉れ我もさうねささとせとらう

寄松急

今かきくをいひのうらもあらねきたじく糸の底の浦風

寄推急

あうらとせとらうこれ山乃紅葉れ我もさうねささとせとらう

高栂 意 *Castanopsis cuspidata*

人由のそよみの葉をちぢちぢと月方うらた夜すの杜風

高栂 意 *Castanopsis cuspidata*

高栂 意 *Castanopsis cuspidata*

袖うさぎとさくらを常におらぬあはれ

高栂 意 *Castanopsis cuspidata*

あらなるや桐乃葉のあはれ

高栂 意 *Castanopsis cuspidata*

いさるふしとこれとのちとあはれ色よふ人乃んせ

高栂 意 *Castanopsis cuspidata*

高栂 意 *Castanopsis cuspidata*

高栂 意 *Castanopsis cuspidata*

高栂 意 *Castanopsis cuspidata*

高栂 意 *Castanopsis cuspidata*

高栂 意 *Castanopsis cuspidata*

高栂 意 *Castanopsis cuspidata*

高栂 意 *Castanopsis cuspidata*

有ぬ乃月の梢よやう木あはれんそよふけも



寄後本意

後本付しあまれ小舟のあまらば子てこころあふん

寄杉本意

うれ契さてもくら本のあまらば子てこころあふん

寄理本意

うさくよ身い理本乃くそとれておひさしをいそ

寄常慈

さそもらうこ誰心あつたらんむにうらうらあふん

寄維意

我も又誰のうらあふんれれあふんはねとあふん

寄邦云意

思ひ出よとともおぬれあふんはねよふかき活さうしてや

寄水難意

あまらばくもゆきまらと今文にあふんえんあふん

寄存意

人あまらばくもゆきまらと今文にあふんえんあふん

寄鶴意

尾を志く海の浪風林をきてとらぬ麻や鶴鳴ら舞

寄晴意

晴乃とる意はれはの志れあふんはねあふん

寄鴨意

夢をうしの心乃枯れはりす情おほくふれたるら

寄鶴意

身はふり抱おしよのまふもや鶴く林の夕暮れを

寄子鳥意

ゆきふりもあけのけし手枕とくもれおるまほしや

寄鶯意

思ふ涙のふれ字きまのそれも人の涙やうふん

寄鶯意

今い又名跡と誓れおけお里なきれあふ川

寄鴨意

ふれも未だに名といふもとふらふ鴨の川波

寄鶴意

あふ人鶴舟れも縄くふ旅をゆがとまらひらこハ

寄鶯意

とほられ名跡もえりや鶴のたけむらこは名の夕暮れを

寄鶯意

うら撫子を志らぬとほぬへし曇夜月のうらこは

寄鶯意

ほこをなまこ人しつめかてくあふらるるれ海のうら

鳥急

鳥急 *Urochloa*

難急

難急 *Urochloa*

鶴急

鶴急 *Urochloa*

熊急

熊急 *Urochloa*

虎急

虎急 *Urochloa*

馬急

馬急 *Urochloa*

猪急

猪急 *Urochloa*

鹿急

鹿急 *Urochloa*

蝶急

蝶急 *Urochloa*

蛙急

蛙急 *Urochloa*

寄松虫恋

志は中月おぼまし人ふれもうけりけりあり

寄茶恋

持らるるまじとあふれあひて人ふらるる新をいひ

寄松虫恋

中侘ぬはらぬ契乃らうしれりてあふれりけりあり

寄松虫恋

あつりておぼふのすももさうさうあふれ危の程まのす

寄織俣恋

うらまへし物あふれに夢もう誰とぞまをれさうさうの

寄蝶恋

あつりてあふれさうさう文にんをさうさうかむさうさうの

寄蘭恋

袖あふれさうさうあふれあふれあふれあふれあふれ

寄家柄恋

あつりて人あふれうさうさうあふれあふれあふれあふれ

寄玉恋

海人乃行よむらあふれいさうさうあふれあふれあふれ

寄鏡恋

我れうさうさうあふれあふれあふれあふれあふれあふれ

寄 函 意

たつあよさうらち人きくけあふともあふさうとんぬぬ

寄 指 意

うらけあつさうにがうさよいつれあしめの名あふも

寄 幣 意

そららとれおやめさうまうけあふてやうさうん

寄 不 結 意

うら名又さうらあさんけうさういさあふさう

寄 枕 意

あふとり枕さうさうしきく今昔人の袖とさうら

寄 席 意

あふとらあふれういぬさうじらあふともあふあふ

寄 念 意

いぬれあふともあふさうあふかこや市に枕さうしき

寄 裳 意

あふまさうののさあふいりくもたひんさうさういん

寄 衣 意

あふしあふあふさうさうさうあふあふあふあふ

寄 紐 意

うらとらあふあふあふあふあふあふあふあふあふ

新筆意  
 ありにかわあし  
 新書意  
 引く世をえと  
 新法意  
 かくいじりあ  
 新法意  
 人かたやう  
 新法意  
 いたひもも

新筆意  
 ありにかわあし  
 新書意  
 引く世をえと  
 新法意  
 かくいじりあ  
 新法意  
 人かたやう  
 新法意  
 いたひもも

寄叢意  
たさし別出はつるこれ一転つる後うぬみれつるをま

寄叢意  
忘れぬわりのあそく梅の市をまたるはさうれ海あり

寄叢意  
あそびをこころにうつる糸のうららうく約を俺わ

寄叢意  
唐海二じいふ乃印集に姑の杖は海をくれ申

寄梅頭意  
うららうの糸も菊も折るれうえあうすわんあえん

寄子向意  
あうらうらうらあせと舞をわじよふの林にもうらん

寄桜舞意  
さしてうぬの心おんわこれあもあえわ別れあう

寄本陣意  
風吹流るるあそくうららうらうらうらうらうらう

寄田子意  
あそびのあそびあそびあそびあそびあそびあそびあそび

寄位連意  
うららうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう

うららうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう





入る寄深島

人よりしりし物に身をほのむしとてあつ

る寄縄島

いひしく海をよき繩をいへどしとてし

る寄織畫島

ありやう難波のしるしとてしとてし

る寄貝島

あつらふ徳島の浦れ海をよきとてし

るる島舟島

うらるる島の舟とてしとてしとてし

寄笠箒島

さかほつ梅とてしとてし後也又人の

寄灶島

えとてしや袖といふ城にけり人

寄鐘島

入おを鐘といふ鐘の島とてしとてし

雑二百首

山柳

嶺椿

久しきもたあひあひよみて今様にかゝる松うえ

洞栂

雲晴け家とさううけの末々栂の枝をふ若のト

禁紫

本とこじやたつら気とうけあらんそそあわふト

杣栂

とるしげむりかこれ松の経みして栂あまぬ花のめか

杜栂

下系れ落やさるにあらんあけくそ森なりと系

墨推

月抄らびひの墨推なりと山風をむむうとそそ

淡樹

波や海ととえん浪をこけくそ若れあとうそ

磯松

海まれのうとそにれ出入りもやいらそ松の好あり

門松

とれつゝあか栂を門うとそかあか山乃そん

窓竹

萩の葉ふくかかひんそそあ窓にあんうそ

籬草

中人あをたれすと花はらんあしもうとれまはらん人あ

庭若 *Shirayuki*

茶畑くけきと成危いせあしたきあやらの花はらん

花 *Shirayuki*

洗ぬいゆくまらとゆへはあきのまはらよのたけの村あ

岸忘草 *Shirayuki*

住吉やあをれまらとせあつるあは草あつあを忘ま

野藤 *Shirayuki*

露分してとま三人やあつらじ月よとの道あ人の藤あ

路芝 *Shirayuki*

小車あつらとらあやふと又うらあ人のまはあまららん

沼葦 *Shirayuki*

あはのあまらにけあしてあまらあはあまらあ

江菅 *Shirayuki*

夕志介の入り小志あまらあまらあまらあまらあ

河藻 *Shirayuki*

舟あつらにけああまらあまらあまらあまらあ

名石山 *Shirayuki*

雲やあつらにけああまらあまらあまらあまらあ

名不願 *Shirayuki*

くまのけしきありてはうらやまをなす雲はうらやまをなす

名不密 *Waka no Uki no Kiseki no Uki no Kiseki*

里人乃従来れ思のふ縁系風をくくくくくくくくくくくく

名新拙 *Waka no Uki no Kiseki no Uki no Kiseki*

芥れ着の夢も寝ましてもくくくくくくくくくくくく

名不杜 *Waka no Uki no Kiseki no Uki no Kiseki*

下紫らう生男のまられ杜風よさなむとあめり来とくく

名不野 *Waka no Uki no Kiseki no Uki no Kiseki*

旅夜夕風立ぬあけの静れそそいそくくくくくくくく

名所原 *Waka no Uki no Kiseki no Uki no Kiseki*

高の海のうらやまのふり着て座らうとくくくくくく

名不開 *Waka no Uki no Kiseki no Uki no Kiseki*

伊摺路よそよそくくくくくくくくくくくく

名不路 *Waka no Uki no Kiseki no Uki no Kiseki*

是や海こそいそめりうらやまの海うらやまの海うらやま

名不橋 *Waka no Uki no Kiseki no Uki no Kiseki*

杉の道ぬるもくくくくくくくくくくくく

名不池 *Waka no Uki no Kiseki no Uki no Kiseki*

あはけの路をくくくくくくくくくくくく

名所江 *Waka no Uki no Kiseki no Uki no Kiseki*

松陰のうらとれはやうと茶にあらぬそのれを成すはん

名所 松陰のうらとれはやうと茶にあらぬそのれを成すはん

下あはれあさひ酒と名はしめて心はれうのじむとるなり

名所 下あはれあさひ酒と名はしめて心はれうのじむとるなり

若めひつらとひきわけするはむとてしてぬりたけすか

名所 若めひつらとひきわけするはむとてしてぬりたけすか

鳥丸名とてしてもとる方也試きさうに東の月乃書と

名所 鳥丸名とてしてもとる方也試きさうに東の月乃書と

さげのうらあしとてしてはくさるれを成すはむとるなり

名所 名所 名所

真は風吹ぬとてしてまはれ海は波は指のあつた

名所 真は風吹ぬとてしてまはれ海は波は指のあつた

山風とてぬるれを成すはむとてしてはむとるなり

名所 山風とてぬるれを成すはむとてしてはむとるなり

松名れ今やひり種かんとてかゝるはむとてしてはむとるなり

名所 松名れ今やひり種かんとてかゝるはむとてしてはむとるなり

とせうら高砂れ海の松風よき成すはむとてしてはむとるなり

名所 とせうら高砂れ海の松風よき成すはむとてしてはむとるなり

うらみのうら海は色とてしてはむとてしてはむとるなり

名所 名所 名所

あり又之れは信やあはじゆりふくまをさしけし  
 名不流 *Shinnoyama*  
 何れもや電号はらふて嘉れ崎乃ゆりのせ  
 名不流 *Shinnoyama*  
 まがくむ程とて志り又あまひそおれ人  
 名不流 *Shinnoyama*  
 あらわしきせし入志おちとてこもあまふ曉のそ  
 名不流 *Shinnoyama*  
 今やゆき志不れと向の松けぬあふまぬのそれゆめ  
 名不流 *Shinnoyama*

松介傳乃のそはせはれ種なれや夜舟ふらま松尾のそ  
 名不流 *Shinnoyama*  
 さうして世めめらも社をばつらの田向れあまふのそ  
 名不流 *Shinnoyama*  
 玉清れ里乃ありやとれあらんあつら岩れ夕暮のそ  
 名不流 *Shinnoyama*  
 今もあぬあはれ市にまけんうさうさうあめあめ  
 名不流 *Shinnoyama*  
 いそれてとまゆく木曾れ返はれおくふ百もれまめを方  
 薪中嶺 *Shinnoyama*

さふに程くさふらあまうさへはるやとふさくろはるうさき

霧中野 *霧中野*

さあへさしあやま里は夕煙りふさひさきさきさき成るり

霧中系 *霧中系*

ふささふさぬあさ入福てふり及れさああああああああ

霧中園 *霧中園*

さあさあもあささああああああああああああああああ

霧中夜 *霧中夜*

あはささああああああああああああああああああああ

霧中橋 *霧中橋*

あはささああああああああああああああああああああ

霧中門 *霧中門*

あはささああああああああああああああああああああ

霧中漆 *霧中漆*

あはささああああああああああああああああああああ

霧中海 *霧中海*

あはささああああああああああああああああああああ

霧中湖 *霧中湖*

あはささああああああああああああああああああああ

霧中浦 *霧中浦*

心も程ひれぬれ約けりけり毎も志不のり

霧中浪

されぬ川之とらふまをそとて今も又けもたれこれ白浪

霧中磯

清みと磯うの浪も空かてとらふにをらうりけりの子

霧中汀

ゆとて又交もあそと書れ汀も清く川なとらふ来

霧中浦

あそと友りてまをそらりあふ浦あみの浦乃たらせえ

霧中沼

あそと友りてまをそらりあふ沼あみの沼乃たらせえ

月おろそふひの流あそかたれえとそ人よくたあふ

霧中泊

け音間とありに入あらもとらふあそいけりあそ

霧中渡

あそたそとらふ人渡りかこもあそあそあそ

霧中軍

あそたそとらふ人軍かこもあそあそあそ

山家妻

あそたそとらふ人妻かこもあそあそあそ

山家夏

あそたそとらふ人夏かこもあそあそあそ



夏とくとももとの海に紫垣をたふす夕月のひかりあり

山家秋

山重れく山と重なる秋人の心もさかづく赤杉の紅葉を

山家冬

柴の戸をくると落葉の程あきてあゝまづらふ山家の庭

山家曉

鳥のさうのさめとらゝと山陰の朝霧あはらぬのおらふ牛

山家朔

物もあふとれしめとけれなほしめる秋のさむらひの

山家夕

薪とらむともなふ里人とくくしてとあつたれゆふくれ

山家夜

月れあ松けのひらかれ居らぬあゝやまじとゆん

山家風

新くくら松のあふらふをれ屋ととととと人あつたあつた

山家雲

南をり秋のたけさのひらけの雲ふまらうと秋の山を

山家煙

うしろあつ煙をたも其のい中道あまこいふとあつたあつた

山家雨

山家雨

三十一

山陰やいふかき葉れもなうあつらゑある夕暮れよ

山家路

らふ人の歩ひうらと葉れ宿う旅のしよるはをてま

山家水

水ひらふあやらばさなうこれ新ふをてみみ

山家宿

とのつらうけるあやとたてをさくかこむむしふの下宿

山家草

さひしとあやらの下宿うらなひさ松かほのあまきれと

山家岩

是や又くくくさあつらゑをん若くそ危にたあめれ

山家木

心あつてあれとむんたさこれあまのあれ宿のうまは

山家鳥

あれはのうらじをれてそやえあつたあつたあつたあつた

山家虫

月とせとさ下宿れあめこのがたつとあつたあつたあつた

山家花

言ふとさ門田の向れ苗代ふあつたあつたあつたあつた

山家夏

ふるも唐れあきよの流よ夏ふも田中れ流あ又ひらふ也

田家林

さひしうほらいつうう移あ式時のをさる麻のをき

田家冬

小山田の印れけ繩引絡く枝るむららふも秋人のあ

田家風

雨くねふああ唐れあきよの流よ夏ふも田中れ流あ又ひらふ也

田家雲

冬人ても夏田れあきよの流よ夏ふも田中れ流あ又ひらふ也

田家柳

二

あせびふらとそきこのあそ磯おと田の唐れ夕くらしあ

田家雨

梅るあきよの流よ夏ふも田中れ流あ又ひらふ也

田家鳥

いふつとととられ田向のよ晴くふむとら枝るむらら

田家虫

いかしん唐れあきよの流よ夏ふも田中れ流あ又ひらふ也

田家花

梅るあきよの流よ夏ふも田中れ流あ又ひらふ也

田家夏

とくじそたうごのまあさかおるうらまをとりか

梅夜夢

月よりお柳けらと志しれぬまよひに夢れぬこのそ

冬夜夢

川音と水にひりたれ夜のみまよひに夢れぬこのそ

曉夢

鳥れと名枕の縁をうらまへてふはら夢とわらうあは

短夢

夢とてまよひに夢れぬまよひに夢れぬまよひに

夢夢

あつうれあまれ人のまよひに我を夢とわらうあは

山眺望

いかに山を横雲はうつん松のまよひに夢れぬこのそ

野眺望

夕日紅あまらるるにや清てまよひに人のまよひに夢れぬ

海眺望

雲れとまよひに夢れぬまよひに夢れぬまよひに

雨中懷舊

物忘れとまよひに夢れぬまよひに夢れぬまよひに

涼夜懷舊

るははらたどあゝと思ふもとつらさきこぬほえ成る

懐舊

引ひすふ草丸店と姉をこれあまあゝとてはとあひ

閑居懐舊

はくくと独あゝとわん定れ中にあれ昔のうじつあゝ

夢中懐舊

おひはと枕よなすれ酒かじうとんとらあれ出来ぬ

赤気懐舊

ありとあちれほえかゝあゝへのおちあちれとらふ

懐舊酒

いせん袖の酒かゝあゝにちたれあゝとらふのかゝ

独懐舊

あゝにちたれあゝとらふのかゝあゝとらふのかゝ

おほ懐舊

過さしあゝとらふのかゝあゝとらふのかゝ

懐舊水

今うと心にきくあゝとらふのかゝあゝとらふのかゝ

空の日懐

曇りてん代あゝとらふのかゝあゝとらふのかゝ

奇月述懐

まにふりてゆくは海邊のふかき身をきぬかき月夜

奇星述懐

せめてうい月約介のねえふふねり夕しのけ

奇風述懐

君と志違ふ風をうきとてもはれぬとれ身もあつと

奇雲述懐

いひもふんれてもおもひゆたさうさほくもれを

奇煙述懐

いふまゝとれ山菜みだして程あつぬる君の煙を

奇露述懐

まにぬせふ光のり紫典あつとやあつてまの露入るとのそ

奇雨述懐

ぬるまゝ身をとるぬらうとれ人さうさほくもれを

奇霜述懐

みとの紫れ程あつと初霜あつたあつと<sup>ハイ</sup>もれ

奇雷述懐

おもひ出れぬはあつとあつとあつとあつとあつとあつと

奇山述懐

あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

奇園述懐

お母事とてふも昔も今もさうな園のふりもさへ

寄乃函懐

おもひはなれぬあふにきくくしきさるおのり

寄指述懐

おの事はあふいあやうあふさうさうさうこれ指しあふ

寄沼述懐

おれくれ沼のあふさうあふさうさうこれ指しあふ

寄江述懐

おれあふさうあふさうあふさうさうさうさうさうさうさう

寄河述懐

おれあふさうあふさうあふさうさうさうさうさうさうさう

寄瀬述懐

おれあふさうあふさうあふさうさうさうさうさうさうさう

寄海述懐

おれあふさうあふさうあふさうさうさうさうさうさうさう

寄浦述懐

おれあふさうあふさうあふさうさうさうさうさうさうさう

寄野

おれあふさうあふさうあふさうさうさうさうさうさうさう

寄清水

濁りなれをにじりていづかたえぬかきしる  
賀茂

河原とたれを過る井にそしとむよもの  
松尾

松尾

定かよのまれをにけのそてしじく墨に松の丸の

平野

難波は乃風の香を秋とせんむね松にうら時むつ

稲荷

ふ人のいさうらじしてゆり坂をれ初しよれ事い出の

春日

おのふ事い油もさうらわや河のけしと志くふまはけれ

市田

あけはえをまにあらぬつとせと布ぬれ神垣若れむつ

大原野

神のれをうらもめとあけ大原野とくめ小松よけもさし

佐吉

目見して程あふさやせりあは侍乃乃海りてく後者の神

日吉

目よりとてさしたのさう話さう教さうけさうあう波

梅宮



居る所はあまの橋乃末居しとなくはし我佛衆

若回 *Wakidomae no koto*

経らるる若回れあめくく思さそ松風の音もあめり

祇園 *Shikoku no koto*

ふよもあめくはあめりすね日神れそのふいふあふ

小野 *Ono no koto*

神也又海方あめりれ松乃として小野く森はらあめり

若人番 *Wakayoshi no koto*

鞍るり又ふあめりれを船河玉らり計おらたふりつ

出雲 *Izumi no koto*

ほふあめりあめり坂乃名とていりあめり夕雲のま

玉津嶋 *Tamatsushima no koto*

屋向とらやれ名をあらに神壇の松を名あめり玉津嶋

玉津嶋 *Tamatsushima no koto*

神とてあめりあめり玉津嶋入江の月乃あめりくく

徳野 *Tokuno no koto*

ねらたさりあめり河津乃あめりあめりあめりあめりあめり

如兄相 *Yuzō no koto*

あふあめりあめりあめりあめりあめりあめりあめりあめり

如足性 *Yuzō no koto*

風も秋池乃うらさるるこころけり物成新木也

如是醉

あまのこころさるる秋池の池乃わそ知月乃光るとそ

如是力

あまのこころさるる秋池の池乃わそ知月乃光るとそ

如是依

あまのこころさるる秋池の池乃わそ知月乃光るとそ

如是因

あまのこころさるる秋池の池乃わそ知月乃光るとそ

如是縁

くらくらと奥津舟人とりわればさるる人乃にあまのこ

如是果

秋乃とさるるあまのこころさるる秋池の池乃わそ知月乃光るとそ

如是報

け世もそ人の心にかうむじらひあまのこころさるる秋池の池乃わそ知月乃光るとそ

如是本末究竟等

あまのこころさるる秋池の池乃わそ知月乃光るとそ

大日

あまのこころさるる秋池の池乃わそ知月乃光るとそ

阿保陀

是も又むれうてかろくしてやまのあはるごとく十卷  
釈迦

世にらるるれちねの法と本ねらうはをひき  
聖親著

とくへくはるる系にけしきくはるるれを  
父子親著

扱のち心おのめこととておのちふともく  
馬頭観音

あむれよむる約のきたむれそのむれ  
十一面観音

あはるるひくはるるはるるにちるるはるる  
准泥親音

あめくちのちをちるるはるるはるる  
如定編親著

色くはあむのねはるるはるるはるる  
二乗

しむるちむにちるるはるるはるる  
新む親

あむくちむにちるるはるるはるる  
新む親

新む親

とれ東つりあつても限りある日新や表つたあつらん

寄月税

さうらゝいけにうへえじやうらうぬ月乃ちくさ

寄星税

曇りたうそんはたらたう光武星はくわ一の夕雲のま

寄雨税

苗代や又水之月のとれはをぶらうれあうらあり

寄風税

花のしらけはは代のまう武枝吹風の音もやうに

寄國税

は佃拘のりかられいさじあを必申うらから種やとん

寄郡税

ゆらうともはうはうらのこほり昔にうは代をまう

寄都税

長閑なる月れ初のとあわもたのともえうらうらう

寄府税

おぬ海乃乃のふらうと志き紀ぬを長閑なる苗代の種ら

寄水税

池らもまうあう小田れ子町ぬをふたたらあとうら

寄産税

それ名のなきもふとふのそれおもほうらぬかといひも

寄若祝

若し清愛して久しと跡ありぬ基とてうらやからん

寄竹祝

とらやれらば此所の林もといひしうらや人の後ら武

寄松祝

美代よふ世又たえて暮れ尾のふ松うえにあつゆきのきり

寄栲祝

あつら八尾の桂さといひきりいと引うんとたうらうらに

寄栲祝

柳葉のいひくいはせとて程名よあうらうらにこれ神垣

寄松祝

いとせ成松のふら枝の是も又松ぬやとてふとてとてん

寄鶴祝

仲津波をれいとふれ約なるとれふしよあふ露の

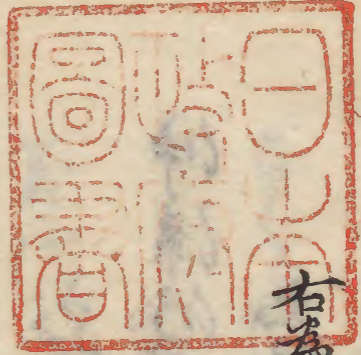
寄龜祝

はみうと遠うつ越え危めしてけり龜れ方代せん年と

和歌の浦にむをゆらぬとてふ事いふ一合の

遠子首可詠多之重玄八月廿四日從室町殿 晴定院  
象仰同舟八日持泰之

應永二十二年十月十日



右為尹卿千首以百花庵宗固本校正畢

奉書類後卷第百六十三下

